

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年 2月20日

事業所名 きこえこども支援センターひなげし

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3			
	2 職員の配置数は適切である	3			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	子どもたちが自由に遊べるような環境作りを行っている。ブロックなどは多く置いてあり、それぞれの遊び方や楽しみ方ができるようにしている。	建物は2階建てになるが、エレベーターの設置はないため、主に1階部分で活動している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		感染症に対策も含め、清掃や設備の消毒を徹底している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2		フルタイムの職員、パート職員それぞれが十分に参加という状況が難しい。適切な方法を検討していきたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2		現段階では行われていない。今後の検討課題と思われる。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		施設外で実施されている研修への積極的な参加、またそこで得た内容を他の職員の共有している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3			

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	季節や行事に合わせた活動を検討するようにしている。	立案の際は職員の意見集約しながら検討している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	年度末に翌年度の活動を検討しているため、そこで内容を調整している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	3			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		毎日利用されるメンバーが異なるため、子どもたちの来所前にその日の動きを確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		支援で気になる所はその都度確認を行い、支援終了後には振り返り、気付いた点については記録している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		日々の支援に関して気付いた点等を記録し、気になるところがあればその都度話し合いを設けている。また、スタッフ会議で支援の見直しなど、検討している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1		
	23	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	連携会議のなかで共有できる情報は相互に理解を図っている。	
	24	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		上記23のように、幼稚園から小学部に移行する時も学校と情報共有、相互理解できるよう取り組んでいる。	
	25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		

関係機関や保護者との連携	26	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5		障がいのない子どもたちと活動する機会はなかなかもたれていないため、どのような形であれば可能か検討していきたい。
	27	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		日々の連絡帳のやりとりや引継ぎ等の際に子どもの様子等の共通理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	4		
	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3			必要となる費用については契約時に説明させていただいている。また次月の予約表及び活動カレンダーと共に毎月お知らせをしている。
	31	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3			
保護者への説明責任等	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3			
	33	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3		事業所の活動として親子で参加できる行事など、以前(コロナ前)は実施していたため、次年度以降の企画を検討したい。
	34	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	35	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		毎月の活動報告を内容とするお便りを作成、配布している。	
	36	個人情報の取扱いに十分注意している	4		個人情報については本部事務所にて保管している。	
	37	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	38	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1		地域住民や聴覚障害のある大人の方々を招いて交流会を実施していた。今後も継続して企画していきたい。

非常時等の対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	2		保護者の方までの周知は徹底されていないところがあるため、今後努めていきたい。
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	4		
	41	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	ご家族に確認を取りながら、おやつを提供や活動(おやつクッキング等)の参加をしている。	現在はご家族から医師に確認をとっていただいているが、今後、指示書が必要なケースがあれば、対応していきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2		
	44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		研修の場面の参加が難しい場合もあるため、内容を動画にすることで各自視聴してもらっている。	
	45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3			現状では対象となる方はいらっしゃらないが、今後対象のケースがあれば適切な対応がとれるようにしていきたい。